



教育新報

第177号

新潟大学

令和こそ

縦と横のつながりを

日ごろより同窓会活動にご理解とご協力を賜り感謝いたします。お陰様で、平成三十年度に計画した諸活動を無事終えることができました。

さて、令和元年度を迎え、これまで以上に母校の発展に寄与すべく同窓会活動の充実を図ってまいります。

一つ目は、教育新報のリニューアルです。「カラー刷り・見出しの工夫」を図り、「より皆様に親しまれる広報誌」を目指します。また、ホームページの充実を図りますので情報発信や情報交換に利用いただきたいと思います。

二つ目は、支部活動や学科の集い、同期の集いを充実させることです。活動助成もありますので、事務局への申請をお願いいたします。

昨年度の十月六日に二十八期の四十年記念同窓会を開催しました。生田孝至先生をお迎えして、北海道を初めとして全国から九十六名の参加を得ました。全員が還暦を迎えたにもか



かわらず、気持ちは大学時代にタイムスリップし、旧交を温める素晴らしい会となりました。支部や学科の縦のつながりも大事ですが、同期という横のつながりも大事にしていく同窓会活動を目指していきますので、同期の会の予定がありましたら事務局にご一報ください。



教育学部同窓会長
白杵 勇人

花鳥風月

広報部員として本部役員となつて二年目になる。本部会や評議会等では、名立たる大先輩が勢揃いする場に恐縮するばかりである。白杵勇人同窓会長は、私が新採用の頃目標としていた先輩の一人である。自分のような者がこの場においていいのだろうかと思ひながら、勉強させていただいている。

昨年度は、「にいがた教育フォーラム」や「同窓会の集い」にも参加させていただいた。どちらも自分の今や今までを振り返り、また、これからの在り方を考えていく上で大変貴重で有意義な機会となった。

令和元年となる今年度、「教育新報」が大幅に紙面を一新する。同窓会の活動や同窓会員の活躍を、更に広く伝えていくことを目指す。また、教育実践学研究所奨学金制度も面期的で興味深い事業である。どちらも、大学や大学院と学校現場との連携を更に充実するものになると期待している。私も、微力ながら貢献できるよう、努めたいと思う。

(広報部 若月 利春)

情報交換

情報発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ



集まれ！卒業・修了
5年目までの同窓生

「カミングホームデー」バージョンアップ

3年目を迎える「カミングホームデー」。年々参加者が増えています。本年度は、内容をバージョンアップして実施します。奮ってのご参加をお待ちしています。

- 1 日 時 令和元年 8月24日(土) 12:00 ~ 14:00
- 2 会 場 ホテルサンルート新潟
- 3 参加対象者 平成27年3月~31年3月に新潟大学教育学部を卒業した皆様 並びに教育学研究科を修了した皆様
- 4 会 費 無料
- 5 内 容



・同窓会長あいさつと学部長・教育実践学研究科長による激励の言葉 ・昼食会 ・卒業生・修了生が、事前に作成したスライド写真等を基に発表をいただき、卒業後の活躍を共有し、大学や同窓会への要望を寄せていただくとともに、参加者の親睦を深める。 ・同窓会副会長、閉会のあいさつ



- 祝辞として柴田透様から、教育学部の改革について以下の話があった。
- 教育学部の定員を現在の二二〇名から一八〇名に減らすこと。
- 入試に面接を取り入れること。
- 小・中学校両方の免許の所得を必修とすること。
- 附属学校の副校長を校長とし常駐させること。また、教育学部附属学校から新潟大学附属学校と名称を新たにすること。

令和元年
6/8(土)
会場
新潟教育会館

評議会の報告



六月八日(土)、新潟教育会館を会場に、新潟大学教育学部部長 柴田透様、教育実践学研究科長 宮園衛様を来賓に迎え、令和最初の同窓会評議会が開催された。

その後、評議会では、昨年度末に奨学金を受けた二名の教育実践学研究科生の研究発表があり、そして、平成三〇年度の会務・決算報告、令和元年度の本部役員・活動の重点等が承認された。更に、令和元年度の各専門部の活動報告・活動計画、予算案が提案され、全会一致で承認された。

また、宮園衛様からは、教育実践学研究科についての話があった。その中で、教育実践学研究科は、現場と理論を繋げ、学び続ける教師を目指して自己形成することのできる人材を育成していきたいとのことだった。

その後、評議会では、昨年度末に奨学金を受けた二名の教育実践学研究科生の研究発表があり、そして、平成三〇年度の会務・決算報告、令和元年度の本部役員・活動の重点等が承認された。更に、令和元年度の各専門部の活動報告・活動計画、予算案が提案され、全会一致で承認された。

研究発表

昨年度末に奨学金を授与された6名の教育実践学研究生を代表して、2名の院生からの実践発表があった。

- 参画型校内研修による協働性・同僚性と授業力の向上

- 学校経営コース 小森康貴

深める授業づくり

〜児童の対話に着目して〜
教育実践コース 月岡千夏

令和元年度 活動の重点

教育学部や教育実践学研究科と連携・協力しながら、母校の発展に寄与するため、同窓会としての支援方法を検討するとともに、同窓会活動の一層の充実をめざす。

- 一 「同窓生の集い」の充実
- 二 広報活動の充実
- 三 組織の充実と強化
- 四 大学との連携
- 五 全学同窓会との連携

(文責 保坂 章夫)



令和元年度 専門部活動計画

研修部

部長 小林 由希恵

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様のご参加をお願いいたします。

二 事業内容

「第四十六回 同窓生の集い」

- ・期 日 九月二十一日(土)
- ・会 場 アートホテル新潟
新潟駅南口直結

・講演会

(二時十五分～三時四十五分)

「不登校問題に取り組む教師の姿勢」
「ひきこもりの原点を考える」

・講 師 石川 志郎 様

元新潟市教育委員会

SSTチーフアドバイザー

・懇親会 (四時～六時)

申込等詳細は10ページをご覧ください。



広報部

部長 本間アユ子

一 基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学の紹介との連携を密にした広報活動を推進する。

○四色刷りカラー印刷で紙面の刷新を図る。

二 活動内容の概要

「教育新報」年間二回発行

○第一七七号(七月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月 評議会の報告、カミングホームデイ紹介 令和元年度専門部活動計画 支部・学科代表者会の報告 本部役員、支部長、学科代表一覧 平成三十年年度決算報告 令和元年度予算 奨学金制度について 大学教官の異動及び大学のコーナー 「同窓生の集い」の広報

○第一七八号(二月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月 「同窓生の集い」の報告 学校紹介(小・中・特別支援学校) カミングホームデイ報告 令和元年度会務報告 全学同窓会交流会の報告 学科や支部の活動紹介 交流部活動報告 「大学との懇談会」 大学のコーナー 会員の広場

三 お願い

○寄稿依頼にご協力ください。

組織部

部長 長沢剛

一 活動の重点

(一) 学部及び教職大学院(教育実践学 研究科)との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。

(二) 永年会員となる学生とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るよう努める。

(三) 支部等の組織の改編に向けた諸活動の検討を継続して行う。

二 活動の内容

(一) 支部長会及び学科代表者会の開催
①日 時 令和元年6月8日(土)

②会 場 新潟教育会館

③内 容 支部(学科)の状況、情報交換、支部(各学科)の集いの開催、会費の納入

※評議会終了後、学科代表者会と支部長会を同時時程で別室にて開催した。

三 その他

(一) 教職退職者への対応
・事務局と連携して、継続の意思を確認する活動を進める。

(二) 学部入学生、学部卒業生への対応
・事務局と連携して、入学生には同窓会の理解を得る活動、卒業生には、永年会員の確認(連絡先等)の活動を進める。

(三) 事務局及び交流部との連携
・カミングホームデイ昼食会参加者及び参加者が当日発表するスライドの集約を行う。

交流部

部長 永井高志

交流部は、本年度特に「カミングホームデイ」の内容をリニューアルします。

1 カミングホームデイの実施

(令和元年8月24日(土))

卒業生の現在の状況や学部・大学院への要望、同窓会活動への提言等、昼食会を通して懇親を深める。

2 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

(令和2年1月23日(木))

学部と現場の双方の現状を報告し、要望等を述べ合いながら交流を深め、意思の疎通を図る。

・大学・学部・教育実践学研究科の現状と主な取組
・卒業生の就職状況と現場との連携
・同窓会活動への提言 等

3 各種教育関係機関、他団体との連携の促進
全学同窓会への参加を促す。



支部・学科 代表者の報告

令和元年六月八日（土）、評議会に引き続き、新潟教育会館において、支部長会、学科代表者を別室にて同時に開催しました。

支部長会

三十四支部中十七支部の支部長が出席され、水澤玲子副会長の挨拶の後、事務局から会費の納入事務の改善点と問題点について説明がありました。

会費の納入事務について今年度から改善された点が二点あります。一点目は、今までよりもかなり早い四月の段階で同窓生の名簿提出と会費の納入をしてもらうことにした点です。事務局で会費の納入状況の確認を十分に行った結果を支部長会で報告してもらいました。二点目は、各支部長に支部の各校の同窓生名簿と会費の納入状況が知らされるようになったことです。この

ことにより、支部長は支部の状況を把握することができ、名簿が提出されていない学校や会費を納めていない学校に働き掛けをすることができるようになりました。これらの改善点は、昨年度の支部長会で出された意見を受けたもので、効果が大きいとの声がたくさん聞かれました。

会費納入に関して、永年会員からも千円の年会費を徴収して納めた学校が何校かあったという問題点が事務局から説明されました。平成二十二年度入学生（平成二十六年卒業生）からは入学時に同窓会の永年会員としての会費三万円を納めてもらっています。しかし、保護者が払っているなどの理由から卒業生自身が永年会員であること知らない例もあるとのことでした。そこで、永年会員の制度を各校に確実に周知し、誤って会費を徴収しないようにはしていかなければならないことが確認されました。各支部で各校の幹事を集めて永年会員制度について確認する研修会を開いた方がよいという意見も出されました。支部で研修会を開く際には、支部助成を活用することもできるという説明が事務局からありました。

また、事務局からは、各校で集めた会費を納める際に、手数料が違うので、窓口ではなくATMを利用してほしいという説明もありました。

更に、現段階でまだ会費を納入していない学校があるので、支部長を通じて

働き掛けをしていくことも確認されました。



学科代表者会

十五名の学科代表から参加していたが、今年度の学科の集いの持ち方やこれからのように会を運営していったらよいかについて意見交換をしました。

「これまでのように会を運営することが難しくなってきた」という声が多く聞かれました。「新入会員が少ない」「名簿の更新ができない」など、組織づくりの課題や、実践発表や卒論発表など、これまで行ってきた研修中心の会を行うことが難しくなってきたことなど、学科の集いの在り方を改めて考

えてみる必要があることを共有しました。

また、「大学とのつながりを確かにするために、各学科の同窓会担当を明確にし、学科代表に伝えてほしい」という意見が出されました。多くの会員が、卒業してしばらくたっているため、当時の大学の先生は、退職されていたり、他大学に異動されたりしていることがほとんどです。同窓会の運営について相談したり、現役大学生との橋渡し役になったりする方が必要です。ぜひ、同窓会本部からの働き掛けをお願いしたいと思います。

学科の集いは、同窓会の中核となる大切な活動です。これからも学生たちを応援し、自分が帰る場所として、いつまでも大切にしていきたいものです。

（文責 長沢 剛）



令和1年度 同窓会本部役員 <任期は令和1年度~令和2年度>

☆印は新役員

役職	氏名	支部	校名など
会長	臼杵 勇人	新潟東	自宅
副会長	水澤 玲子	新潟北	岡方第一小学校
	瀬藤 雄二	長岡西	大島小学校
	関川紀美子☆	新潟田	佐々木小学校
	渡邊 勝☆	新潟北	岡方中学校
事務局	杉山 和敏	新潟西	教育学部同窓会事務局
	高橋 円☆		
専門部	研修部	◎小林由希恵☆	新潟西 笠木小学校
		○小泉 慎子	新潟中央 鏡淵小学校
		志田江利子☆	新潟秋葉 矢代田小学校
		間 裕太☆	新潟北 早通中学校
	広報部	◎本間アユ子	新潟南 味方小学校
		○保坂 章夫	新潟西蒲 岩室小学校
		島垣 武	新潟北 濁川中学校
		若月 利春	新潟西蒲 漆山小学校
	組織部	◎長沢 剛	新潟秋葉 矢代田小学校
		○齋藤 裕子☆	新潟秋葉 結小学校
		古井丸裕三☆	新潟西蒲 巻北小
		樋口 大輔	新潟西蒲 曾根小学校
	加藤 雅晃	新潟東	桃山小学校

役職	氏名	支部	校名など
専門部	交流部	◎永井 高志	新潟江南 早通小学校
		○小泉 浩彰	新潟中央 新潟市教育委員会
		古川 智子	新潟中央 鳥屋野小学校
		細田 英海☆	新潟西 小針小学校
		八坂 剛史	大 学 新潟大学教育学部
監事	松野 孝雄	新潟西蒲 曾根小学校	
	松井 裕美	新潟西蒲 和納小学校	
	軽部 直幸☆	新潟西 内野中学校	
顧問	中川 幸次	県 外	自宅
	江口 直禎	新潟中央	自宅
	大関 雄策	新潟中央	自宅
	磯辺 浩昭	新潟田	自宅
	藤井 保男	新潟東	自宅
	斎藤寿一郎	新潟東	自宅
	佐藤 重勝	新潟秋葉	自宅
	安達 徹	新潟秋葉	自宅
新潟大学全学同窓会	理事	臼杵 勇人	新潟東 自宅
		加藤 文子	新潟江南 自宅
	運営委員	山下あい子☆	新潟西蒲 自宅
		畠山 典子	新潟中央 新潟市児童センター
		岡村 浩	大 学 新潟大学教育学部
カード事業	駒澤 一彦	新潟西 自宅	

令和1年度 同窓会学科代表 ☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	三村 孝志	川東中学校
2	地 理	羽田 雄偉	小須戸小学校
3	歴史研究室	津野 治彦	亀田小学校
4	経 済	古井丸裕三	巻北小学校
5	哲 倫	清野 真輝	真砂小学校
6	社 会	土田 宏美	内郷小学校
7	算数(親話会)	岡村 秀一	小千谷小学校
8	数学(懇話会)	橋谷田 登	亀田西中学校
9	物 理	茂呂 良彦	紫雲寺小学校
10	化 学	栗林 操	須田中学校
11	生 物	八百板恵理子☆	小合小学校
12	地 学	佐久間州彦	安野小学校
13	英 語	山賀 淑雄	県立直江津中等教育学校
14	音 楽	斎藤 隆	中野小屋中学校
15	美 術	永井 高志	早通小学校
16	保健体育	須田 哲明	沼垂小学校
17	家庭[萌木会]	長尾とし子☆	自宅
18	職業指導	松村 明彦	自宅
19	教 育	山岸 真夫	自宅
20	教育心理	岡田 義則	新潟市教育委員会
21	技 術	遠藤 寿紀☆	亀田中学校
22	特別支援教育	西山 有紗☆	附属特別支援学校
23	養教特別別科	長谷川智恵☆	見附特別支援学校
24	幼児教育	近藤 和徳	新津第一小学校
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場
26	生活科学	遠山麻依子	白根第一中学校
27	生活システム	大森 山	糸魚川東中学校
28	健康スポーツ	大口 良平	根知小学校
29	書 道	岡村 浩	新潟大学教育学部

令和1年度 同窓会支部長 ☆印は新支部長

地域		支部	支部長	校名など
上越	1	上 越	関 拓也	東中学校
	2	長 岡 東	山本 俊介	中越教育事務所
	3	長 岡 西	高桑 康博	大島小学校
	4	三 条	近藤由紀子☆	旭小学校
	5	柏崎・刈羽	田村 芳彦☆	日吉小学校
	6	小 千 谷	森田 隆行☆	総合支援学校
	7	加 茂	国本 力	須田小学校
	8	十日町・津南	庭野 紀元	東小学校
	9	見 附	小林 雄二☆	見附小学校
	10	燕	櫻井 清隆☆	分水北小学校
	11	魚 沼	高橋 栄子	小出小学校
	12	南 魚 沼	大原 有喜	五十沢小学校
	13	弥 彦	津端 則夫	弥彦中学校
	14	田 上	浅野 哲司	田上小学校
	15	湯 沢	白井 恵子☆	湯沢小学校
	中越	16	出 雲 崎	吉田 順一
17		新潟北	小林 久哉	葛塚東小学校
18		新潟東	伊藤 紀幸	下山小学校
19		新潟中央	根岸 恵美☆	万代長嶺小学校
20		新潟江南	川又 健司☆	東曾野木小学校
21		新潟秋葉	滝澤 訓	荻川小学校
22		新潟南	樺坂 恭永	根岸小学校
23		新潟西	野瀬 浩司	黒埼南小学校
24		新潟西蒲	高橋 治子☆	中之口東小学校
25		新潟田	小野沢謙一☆	七葉小学校
26		村 上	鈴木 正美	村上小学校
27		五 泉	石田 雄介	巢本小学校
28		阿 賀 野	臼井 政之☆	笹神中学校
29		胎 内	齋藤 重雄☆	中条中学校
30		聖 籠	近藤 幸栄☆	亀代小学校
31		阿 賀	丸山 裕輔☆	上川小学校
32		関 川	中村 克行☆	関川小学校
33		粟 島 浦	富樫 俊紀☆	粟島浦小学校
佐 渡	34	佐 渡	坂井 一美	真野小学校

平成30年度 一般会計決算報告

(▲は、予算に対して減)

1. 収入の部

項目	30年度決算額	30年度予算額	増減	摘要
1 繰入金	8,630,000	8,630,000	0	総合会計から繰入れ
2 雑収入	12	0	12	銀行利息
合計	8,630,012	8,630,000	12	

2. 支出の部

項目	30年度決算額	30年度予算額	増減	摘要
1 会議費	128,916	140,000	▲11,084	本部会、会計監査、評議会、役員会等(会場費、お茶代等)
2 旅費	233,960	250,000	▲16,040	役員旅費、会員旅費
3 助成費	586,500	500,000	86,500	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事務局費	551,299	600,000	▲48,701	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	313,159	350,000	▲36,841	同窓生の集い企画運営費(会場費、講師謝礼、参加助成等)
6 広報費	1,464,219	1,500,000	▲35,781	機関紙発行代、発送代、HP更新手当、パンフNo.8作成代
7 組織費	379,760	200,000	179,760	名簿メンテナンス代、クリアファイル代金、返信切手代金
8 交流費	172,504	150,000	22,504	学部との交流会企画運営費(会場費、参加助成等)
9 大学・学生支援費	1,187,144	1,450,000	▲262,856	研究会バス助成、卒業制作展助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 全学同窓会費	602,260	700,000	▲97,740	学部負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	80,000	150,000	▲70,000	附属校研究発表会等祝儀、新潟教育会館寄付等
12 人件費	1,740,000	1,740,000	0	事務局報酬2名
13 教育学研究科助成	800,000	800,000	0	大学院奨励者6名
14 その他・予備費	24,465	100,000	▲75,535	賞状盆、奨励者賞状印刷代金、事務引き継ぎ
合計	8,264,186	8,630,000	▲365,814	

3. 残高の部 8,630,012円 - 8,264,186円 = 365,826円 *残金は平成30年度総合会計へ繰り出します。

平成30年度 総合会計決算報告

(▲は、予算に対して減)

1. 収入の部

項目	30年度決算額	30年度予算額	増減	摘要
1 繰越金	52,464,828	52,464,828	0	前年度繰越金
2 学校会員会費	3,111,166	3,200,000	▲88,834	会費-振込手数料, 振込用紙印字, 467校・3176名
3 個人会員会費	266,836	220,000	46,836	会費-振込手数料 300名
4 永年会員会費	5,706,556	6,000,000	▲293,444	会費-振込手数料 191名
5 繰入金	365,826	0	365,826	*一般会計への繰入金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑収入	151,124	4,000	147,124	銀行利息、宮園先生、小久保先生より、定期利息(5年)
合計	62,066,336	61,888,828	177,508	

2. 支出の部

項目	30年度決算額	30年度予算額	増減	摘要
1 一般会計繰出金	8,630,000	8,630,000	0	

3. 残高の部 62,066,336円 - 8,630,000円 = 53,436,336円 *残金は2019年度総合会計に繰り越します。

大
学
教
官
の
異
動

◎学部を去られた先生 (昨年度の七月以降)

教授	成田 圭一(英語科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	長谷川 敬三(数学科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	麓 慎一(社会科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	小野 映介(社会科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	岸本 功(理科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	石垣 健二(保健体育科)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	杉澤 武俊(教育心理学)	平成三十一年三月末日 定年退職
教授	井口 浩(教職大学院実務家教員)	平成三十一年三月末日 任期満了
教授	金子 淳嗣(教職大学院実務家教員)	平成三十一年三月末日 任期満了
教授	兵藤 清一(教職大学院実務家教員)	平成三十一年三月末日 任期満了

◎新しくおいでになった先生

教授	北村 繁(社会科)	平成三十一年四月一日採用
教授	尾身 浩光(教職大学院実務家教員)	平成三十一年四月一日採用
教授	渋谷 徹(教職大学院実務家教員)	平成三十一年四月一日採用
教授	横堀 壮昭(教職大学院実務家教員)	平成三十一年四月一日採用
特任助教	加藤 将(教育学部)	平成三十一年四月一日採用
特任教授	大橋 英喜(教職大学院)	令和元年五月一日採用
准教授	田中 雄二(学校教育学)	令和元年八月一日昇任

(敬称略)

令和1年度 一般会計予算

(▲は、前年度比較減)

1. 収入の部

項目	1年度予算額	30年度予算額	増減	摘要
1 繰入金	8,630,000	8,630,000	0	総合会計から繰入れ
2 雑収入	0	0	0	
合計	8,630,000	8,630,000	0	

2. 支出の部

項目	1年度予算額	30年度予算額	増減	摘要
1 会議費	140,000	140,000	0	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅費	250,000	250,000	0	役員旅費、会員旅費
3 助成費	600,000	500,000	100,000	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事務局費	650,000	600,000	50,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	350,000	350,000	0	集い企画運営費等(会場費、講師謝礼、参加助成等)
6 広報費	1,600,000	1,500,000	100,000	機関紙発行代、発送代、パンフNo.9作成
7 組織費	340,000	200,000	140,000	名簿メンテナンス代、クリアファイル代金、返信切手代金
8 交流費	150,000	150,000	0	交流会企画運営費、カミングホームデーの参加助成
9 大学・学生支援費	1,200,000	1,450,000	▲ 250,000	研修会バス助成、卒業制作展助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 全学同窓会費	620,000	700,000	▲ 80,000	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	100,000	150,000	▲ 50,000	附属校研究発表会等祝儀、香典、教育会館寄付
12 人件費	1,800,000	1,740,000	60,000	事務局報酬2名
13 教育学研究科助成	800,000	800,000	0	
14 その他・予備費	30,000	100,000	▲ 70,000	
合計	8,630,000	8,630,000	0	

令和1年度 総合会計予算

(▲は、前年度比較減)

1. 収入の部

項目	1年度予算額	30年度予算額	増減	摘要
1 繰越金	53,436,336	52,464,828	971,508	前年度繰越金
2 学校会員会費	3,200,000	3,200,000	0	会費一振込手数料
3 個人会員会費	260,000	220,000	40,000	会費一振込手数料
4 永年会員会費	5,900,000	6,000,000	▲ 100,000	会費一振込手数料
5 繰入金	0	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑収入	4,000	4,000	0	銀行利息など
合計	62,800,336	61,888,828	911,508	

2. 支出の部

項目	1年度予算額	30年度予算額	増減	摘要
1 一般会計繰出金	8,630,000	8,630,000	0	
合計	8,630,000	8,630,000	0	

事務局だより

◎会費納入のお願い

令和元年度の会費の納入ありがとうございます。各学校においては、永年会員の方からの納入が目立ちます。これは二重納入となってしまうので、十分確認してから納入をお願いいたします。

(永年会員制度は平成二十二年入学者からですので二十六年以降卒業生が対象です。なお対象者でありながら、永年会員の手続きをせずに各勤務校で納入している方もおられます。永年会員の手続きはこれからできますので、希望の方は事務局にご連絡ください。「永年会員証」は入学時に保護者に送付しております。)

また個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りしますのでよろしくお願いたします。

◎助成について

昨年度は、学科や同期の会の集いが多く開催され、助成金を送らせて頂きました。希望される場合は、事務局にお問い合わせください。

◎全学同窓会交流会のご案内

今年も講演会と懇親会を計画しています。期日は十月十九日(土)、会場はANAクラウンプラザホテルです。懇親会参加者には会費の半額を補助しています。是非ご参加ください。

仲間を支援する奨学金制度設立

新潟大学に教職大学院が設置され、四年目を迎えました。

同窓会はこれまで、教職大学院の設置や運営についてバックアップをしてきましたが、今後も維持継続、発展のための支援を推進していきたいと考えています。

その一環として、会則を見直し、教育実践学研究生も同窓会会員とすること、予算の面でも支援できる体制を構築することを検討してきましたが、平成三十年度より研究助成費を拠出することを評議会で決定しました。

「新潟大学教育学部同窓会教育実践学研究所奨学金規則」の第一条には「学業奨励金として奨学金を給付することにより、大学院生の更なる学業成績の向上及び活力の向上を図ることを目的とする」と定められています。この趣旨に基づき、授与対象者や金額など規定の詳細に関して本部会で検討を重ね、先日の評議会にて規則と内規について承認をいただくことが

できました。概要については、次のとおりです。

◇奨学金は、教育実践学研究科長の推薦に基づき、同窓会本部で審査し、同窓会長が決定します。金額については、年度始めに同窓会長が定めます。また、総額の範囲内で一律に授与します。

◇授与対象者は、教育学部同窓会会員で一年次生とします。(一年次末の研究業績を基に、二年時の研究につなげてもらうため)

平成二十八年度より一期生として教職大学院で学んだ修了生は現場に戻り、大活躍しています。昨年度授与された六名は、現職院生三名、ストレートマスター三名です。

また、今年度の募集は教育学部卒業生を五名増やし、定員が二十名になるとお聞きしています。教育実践学研究生が現場と連

携しながら、あるいは現場に戻って、自らの研究の成果と学びを現場や地域に還元してくれることはまちがいありません。同窓会としても、これからの新潟市、新潟県の教育界をリードしていく優秀な教員養成に尽力し、母校の発展に寄与していきます。

(副会長 水澤 玲子)



新潟大学教育学部より アンケート協力をお願い

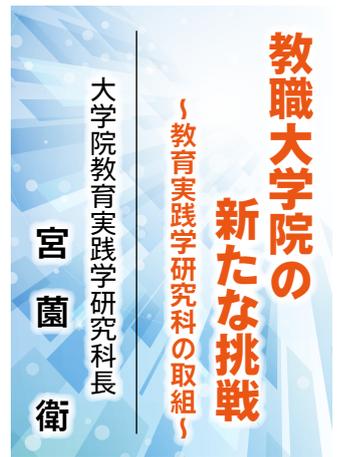
新潟大学教育学部では、教員養成プログラムの改善を目的に、現在教職にある卒業生の視点からの評価を知るためのアンケート調査を実施いたします。今回は在籍中の学生だけでなく、学校現場で経験を積まれている方からもあらためて大学における教育の評価やご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。Web上のアンケートとなっており、最近のカリキュラムに基づいた質問項目となっております。回答可能な部分のみで結構です。頂いたデータにつきましては、カリキュラム改善のみに使用する予定です。ご協力をお願い申し上げます。(※印は必須項目)

◆該当者

新潟大学教育学部卒業生

◆アンケート用QRコード





日頃より、教育学部同窓会の皆様には、多くの御支援を賜り、ありがとうございます。昨年度には、教職大学院に奨学金制度を設けていただきました。院生の教育研究活動が益々充実するものと思います。感謝申しあげます。

一 教育実践学研究科としてのスタート

本年度、教職大学院の名称を教育学研究科から教育実践学研究科に変更しました。このため、平成三十一年四月一日、高橋姿学長、大浦容子理事・副学長に出席をいただき、研究科教員や事務職員の見



▲銘板上掲式

守る中で、「大学院教育実践学研究科」銘板の上掲式を執り行いました。

教育実践学研究科では、学校現場の課題やニーズを踏まえて、教育実践コースを、「教育実践分野」「教科教育高度化分野」「特別支援教育分野」の三分野に分けて選択科目を新設する等、カリキュラムを拡充しました。

これを受けて今年度から、特別支援学校教諭専修免許状の取得も可能となりました。入学定員も、十五名から二十名に増員しました。また研究者教員四名が、新たに教育実践学研究科に加わりました。研究者教員十三名、実務家教員六名、合計十九名の専任教員となりました。研究者教員は学部教育にも関わりつつ、教職大学院の専任教員として授業や院生指導にあたります。実務家教員は、新潟県・新潟市教育委員会との交流人事等により、学校現場で培った教育実践に対する豊かな経験と知見をもとに院生指導にあたります。

二 教育実践学研究科の授業の姿

教職大学院では、理論と実践の往還のある学びを大切にしています。そのための手立て・学びの姿を幾つか紹介してみます。

① 研究者教員・実務家教員の専任教員チームによる課題研究指導

本教職大学院の特徴のひとつは、研

究者教員と実務家教員のチームによる授業や院生指導です。例えばこの両者が二名一組のチームを組み、特定連携協力校・連携協力校を隔週のペースで訪問し、院生の実習や課題研究指導にあたっていきます。研究者教員・実務家教員が、持ち味を活かして協働する中で、本教職大学院での豊かな学びが生み出されていきます。院生と教員が共に議論する時間は、あつと言う間に流れる、充実した豊かなひとときです。

② 通常学級における特別支援教育の視点に立った授業づくり

本教職大学院の特徴として、特別支援教育に関する必修共通科目を設けていることが挙げられます。前述のように、今年度入学生から「特別支援教育分野」を設け、特別支援学校教諭専修免許状の取得も可能となりました。ここでは、共通必修科目「特別支援教育の実践」の授業の様子を紹介します。

この授業では、通常学級における特別支援教育の視点に立った授業や子どもへの指導方法を中心に、教育制度、学校以外の機関・専門家との連携、特別な場での教育等について学びます。授業は理論や基本情報をベースとし、グループでの話し合いや支援計画・授業案の作成など、理論と実践の往還を大事にしています。ユニバーサルデザインに基づく指導案検討を行い、教員・学生が自由にアイデアを出し合い、子どもたちが主体的に活躍できる授業を

考えていきます。

③ 学び高め合う場として

教育実践コースに新たに「教科教育高度化分野」を設け、「授業改善と学習評価」の選択科目を開講しました。本授業には、附属学校教員も随時参加しています。写真は、四月十二日の第一回講義の様子です。グループ毎に、教育基本法・学校教育法等の法令と学習指導要領の教科等の目標との関係・繋がりを捉え、発表しているところです。教科の枠を越えて、専任教員・兼務教員・附属学校教員が、発表内容について議論を深める、相互の学び合いの場となっています。



▲4月12日 授業の様子

学校、研究者教員／実務家教員／附属教員、現職教員院生／学部卒院生等の枠を越えて、学び高め合う場としての教職大学院の可能性は広がります。

第46回 同窓生の集い
講演会
「不登校問題に取り組む
教師の姿勢」
～ひきこもりの原点を考える～

日時

令和元年 9月21日(土)

14:00より
(13:30受付開始)

講師

石川 志郎 氏

元新潟市教育委員会 学校支援課

SST チーフアドバイザー



場所

アートホテル新潟

〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-1
TEL.025-240-2111

申し込み&問い合わせ先

新潟大学同窓会事務局

TEL&FAX 025-263-6760
MAIL dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜から金曜までの13:00から17:00の間にお問い合わせいたします。

日程

受付 13:30～
開会式
14:00～14:15
講演会
14:15～15:45
懇親会
16:00～18:00

入場料

無料

懇親会

新潟大学教育学部の卒業生の方は、是非懇親会にもご参加ください。参加を希望される方は9月13日までにご連絡ください。参加費は3,000円です。

主催

新潟大学教育学部
同窓会

後援

新潟市教育委員会